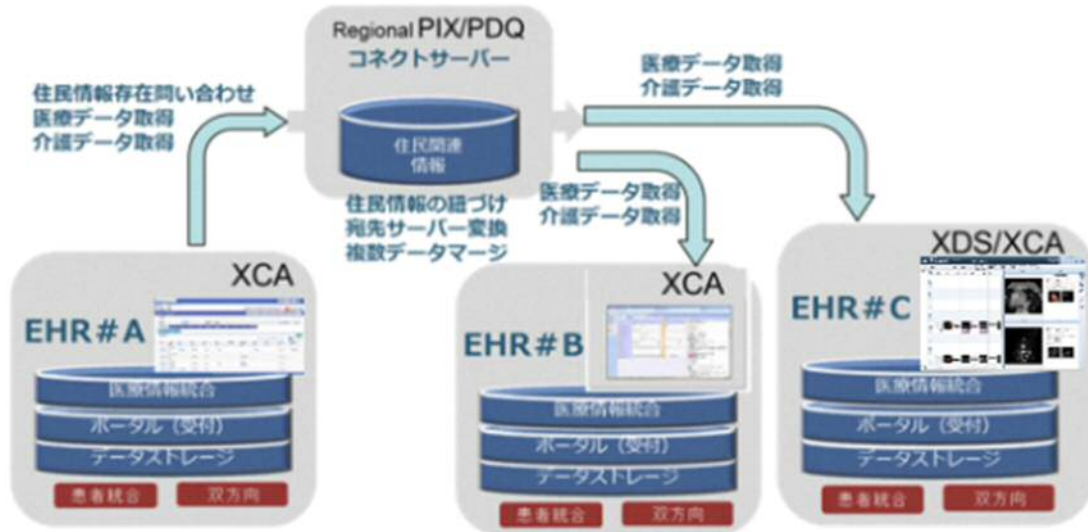


標準技術を用いた相互連携イメージについて

相互連携ですが、本市全体で共通に利用するPIX マネージャ（患者基本情報の管理）をハブとし、各連携ネットワークが保有する医療情報を参照する仕組みを想定しています。この方式により、PIX マネージャと各連携ネットワークで患者基本情報を二重に管理することが不要となり、連携ネットワーク同士を相互に連携させるための費用を抑制しながら統合的に共有できる想定です。

【技術面からみた本市将来イメージ】



また、複数の連携ネットワーク同士が連携する場合、施設や患者の識別子、メッセージ ID 等の識別子として、オブジェクト識別子(OID)を使用します。よって、複数の連携ネットワーク間で連携する場合は、オブジェクト識別子(OID)を一般財団法人日本情報経済社会推進協会が ISO 系 OID の申請窓口になっているので、確認の上、OID を取得し連携を実施してください。詳細は下記 URL 参照のこと。

一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会(JAHIS)発行 JAHIS 技術文書 17-102

「JAHIS IHE-ITI を用いた医療情報連携基盤実装ガイド本編 Ver3.0」

<https://www.jahis.jp/standard/detail/id=550>